

Mint Club

ミントクラブ

19号



造幣局

南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣入り銅貨幣入り平成19年銘貨幣セットのご案内

我が国が、南極地域観測50周年を迎えることを記念して、平成19年1月に”南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣”が発行されます。

造幣局では、この記念500円ニッケル黄銅貨幣1枚と、平成19年銘の未使用の500円から1円までの6種類の通常貨幣を特製ケースに入れた貨幣セットを販売することとしました。

この貨幣セットは、プラスチック製収納ケースの上蓋を開けると立てて飾ることができ、貨幣の表面、裏面いずれもご覧いただけるようになっています。

白いプラスチック製収納ケースは、南極の氷をイメージしたケースとし、中板の表面には冰山、裏面には、昭和基地上空のオーロラをデザインしています。

外装紙ケースの表面には、初代南極観測船「宗谷」、樺太犬タロ(右)、シロ(左)を、裏面には、昭和基地、氷上のアデリーペンギンを配しています。

なお、この貨幣セットには、年銘板は入っておりません。



この貨幣セットの写真(表紙を含む)はイメージ図です。



初代南極観測船「宗谷」



樺太犬シロ

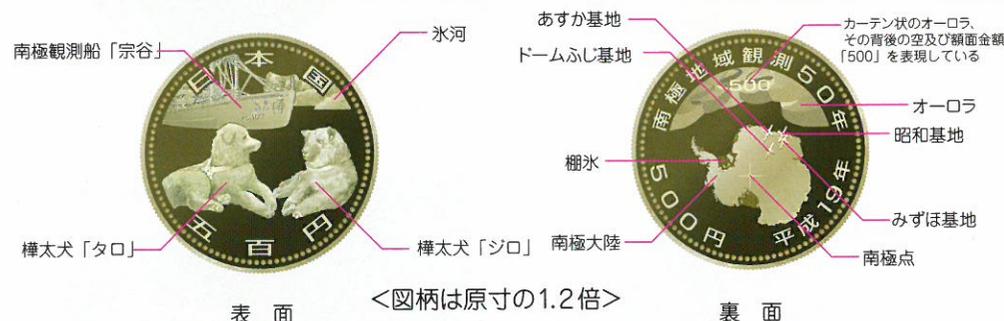
樺太犬タロ

販売要領

販売価格	2,400円(消費税送料込み)
販売予定数	180,000セット 販売予定数のうち、海外販売用、展示用、製品紹介用及び記念事業広報用として、5%を限度に控除します。
申込数制限	お一人様1セット限り (申込多数の場合は抽選となり、当選はお一人様1セット限りとなります。)
申込受付期間	平成18年11月30日(木)まで(消印有効)
申込方法	同封の専用はがきでお申込みください。

記念貨幣の図柄について

南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣の図柄について紹介します。



記念貨幣の表面の図柄は、樺太犬であるタロ(左)とシロ(右)を配し、背景に氷河と初代南極観測船「宗谷」を図案化しています。

また、裏面の図柄は、中央下部に南極大陸を配し、我が国の観測施設(昭和基地・みずほ基地・あすか基地・ドームふじ基地)の位置を大航海時代より南半球での航海の目印とされた南十字星の4つ星で現わし、南極点を十字線の中心で表現しています。この他、中央上部には、貨幣を傾けることで濃淡が段階的に変化する潜像技術を用いてオーロラのイメージを表現しています。

国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣

打初め式

国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣の打初め式を、8月30日(水)、竹本財務副大臣、赤羽財務副大臣及び幸田国際連合広報センター(UNIC)所長をお招きして行いました。



〔記念貨幣の図柄〕



表面



裏面

抽選会

国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣ブルーセットの申込受付を行ったところ、販売数量を大幅に超えるお申し込みを戴いたことから、10月3日(火)、お客様代表他をお招きして抽選会を行いました。



世界貨幣フェアに出展



会場風景

8月16日から19日までの4日間、アメリカ貨幣協会主催の世界貨幣フェアが、コロラド州デンバーで開催されました。

同フェアは、今回で115回を数える歴史ある世界最大規模の貨幣フェアであり、アメリカ主要都市の持ち回りで開催されているものです。

造幣局は、くまのプーさん貨幣セット、ジャパンセットなどの貨幣セットや、ICDCメダルなどの金属工芸品を販売するとともに、海外コインディーラーとの商談を行いました。

プーさんセットに興味を持たれるお客様が多かったのは予想通りでしたが、プルーフ貨幣の美しさや金属工芸品の彫刻の細密さなどへの賞賛の声も多く聞かれました。



販売風景

このほか、各国の貨幣を配布しスタンプを押印する世界貨幣パスポートブックに参加し、5円貨幣を配布しました。なぜ貨幣に穴が開いているのかとの質問が多く寄せられました。

開催期間中、ブースには千人を超える来場者があり、海外における造幣局製品の紹介に大きな成果を上げた4日間でした。



商談風景

古銭蒐集家の世界(前編)「古銭大名」

今回は、日本貨幣協会参事の吉田昭二氏に、「古銭蒐集家の世界」について執筆していただきました。

※日本貨幣協会は、貨幣の収集と研究を志す人が集まり、会員相互の親睦を図ることを目的とした任意団体です。



日本貨幣協会参事
吉田 昭二

皆様は、子供の頃に何かをお集めになったご記憶は有りませんか？
壘の王冠、面子、ビー玉、お母さんの裁縫の切れ端にボタン、
それこそ道端の石でも良かったのです。それを菓子箱に並べ
たり巾着袋に入れる。趣味とまで言えなくても、何かを集める
素地はその頃に出来上がるものかもしれません。

ところで、江戸も元禄の頃、上方には使えなくなっているお金を集める人達が出現し
ていたらしいのです。

ご存知のとおり、当時は小判を中心にした金貨、丁銀の銀貨、そして寛永通宝の銅貨
という三貨体制が確立していました。

その三貨の中で、使えないもの『金貨なら古甲金でしょうか、銀貨なら古丁銀と呼ん
でいるものでしょうか、銅貨なら唐・宋・明の渡来銭か、それを模して日本で造った
鋳銭(びたせん)』が混じていました。

金・銀蒐集家を「古金銀家」、銅貨を集める人を「古銅家」と呼んだそうで、「古銅家」
は後に「弄銭家(ろうせんか)」・「古銭家」として現在に至っています。

それら蒐集家の中心を成していたのは、武士であり、富裕な商人であったと思われ
ますが、古銭を専門に商う者が出現するようになりますと、庶民にも広がっていきました。

単に古銭収集、使えなくなったものを集める世界かもしれませんが、そこにも歴史と
文化が育まれて来たことを知っていただきたく、二人の古銭家、一人は武士それも三万
二千石の大名、片や一介の油商人。両人を通して江戸時代の古銭蒐集家の姿を紹介し
たいと存じます。

今回は、『古銭大名』と呼ばれた朽木昌綱(くつきまさつな)侯を取り上げてみました。

丹波福知山八代藩主朽木近江守昌綱(1750年～1802年)は、蘭学を前野良沢に
学び、俳諧・書画に通じた人として史書に載っていますが、古銭収集・研究家の魁と
しても特筆しなければなりません。

昌綱侯は、13歳の頃には古銭収集を始めていたらしく、それは終生続けられました。

家臣の小沢辰元を諸方へ派遣しては、その入手に精励し、江戸の藩邸には、『古銭買
入所』を作っていたといわれています。そして、その交流は、各地の名だたる蒐集家に
止まらず、長崎商館長イザーク・チチングにまで及びました。

日本の奈良・平安時代の貨幣から諸藩鑄銭貨、中国・安南・朝鮮のものまで涉猟
しますが、海を遠く隔てた無孔の打印貨にも強く心を惹かれていきました。

イザーク・チチングを通してかなりの数の西洋貨を入手するのですが、その見返
りでしょうか、チチングに日本の貨幣、それも貴重なもの『どうやら見本打ちと呼ば
れる特別製の小判や豆板銀、分金の逆打ち』などを渡したらしく、その為に、幕府か
らお咎めを受けたといわれています。

海外にまで目を向けるのですから、国内に対してはもっと際立った蒐集活動を
しています。諸侯、それも水戸や防州、薩摩に対してははかなり頻繁に問合せをして
いたようで、それらの藩は古い時代より鑄銭を繰り返して行っていたからです。

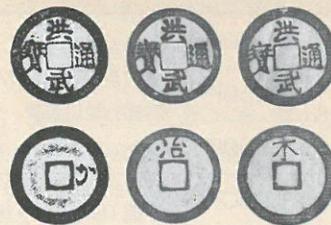
その一つとして語り継がれているのですが、薩摩の梶木というところでは、中国・
明の洪武通宝(こうぶつうほう)を仿って大量の鑄造を行った過去があり、それは
銭貨の背面に「加」、「治」、「木」と一文字ずつ入れたものだったのです。

その三種類の内で「加」の字のものは、当時でも大変稀少なものだったらしく、
今では、正品とされるものが幾枚確認できるものやら、残念ながら、筆者はそれを
手にしたことがありません。

その「加」銭の存在を島津侯に尋ね、入手を働きかけて果たしたとのこと。その
執着心は単に古銭を集めることにだけ注がれたのではなく、それを古銭の研究
(鑄造地の解明・真贋の判別)に生かし、古銭の解説書、分類・研究書発刊へと
繋げていきました。

古銭収集を数寄者の道楽とせず、研究成果を本にして世に出しています。天明2
(1782)年に『新撰泉譜』、同4年に『増補改正孔方図鑑』、同7年に『西洋泉譜』、
寛政2(1790)年に『古今泉貨鑑』、同8年に『弄銭奇鑑』等々、実に十指を超える
著作があり、現在でもその内容は、価値の高いものであります。

昌綱侯が「彩雲堂(さいうんどう)」と号していましたので、その著書を「彩雲堂
泉譜」と呼んでいます。それらの泉譜で特筆すべきは、古銭の一つ一つに名前を
付け、その貴賤を数字で現した点なのです。



九州薩摩で造られた「洪武通宝」
「加」図は『長崎・加治木系図譜』より
(洪武通宝の直径は24mm前後)



「彩雲堂泉譜」の数々
個々の古銭に名前を付け、存在の多少を位付
けで表示している。(数字が小さい程、稀少)

中国にも古くから古銭収集というものはあったらしいのですが、個々の古銭に名前を付けて分類することなどそれまで無かったことですし、それは最近でも変わっていないようです。

日本人がここまで古銭を愛し、系統立てた分類が可能になったのは、偏に、侯が残した書籍と古銭に固有名詞を付して愛蔵することを示したことに因るものと思われますから、日本の古銭蒐集・研究の始祖は、侯であると申し上げて過言ではありません。

さて、朽木侯がそれほど愛し集めた蒐集品でしたが、幕末に海外へ流出してしまいました。

福知山藩にも維新の大波が打ち寄せ、尊皇攘夷と固まった藩論の結果、洋式武装の為に、侯の遺愛品は、ドイツ商人のゲベール銃50挺と交換されたというのです。

交換された古銭は、ヨーロッパ、中国、朝鮮、日本の5千種以上のもので、それらは極上の金・銀蒔絵・螺鈿(らでん)、黒・紫檀等の箱128重(かさね)に入れられたものだったといわれています。

その行方は、長らく不明でしたが、その一部と見られるものが大英博物館に「丹波コレクション」として保管されていることが判り、日本の古銭家有志が現品を確認していますので、我々の先人の事跡が、今後、改めて明らかにされることも近いでしょう。

今回は、大名のお遊びだと言では片付けられない朽木昌綱侯の蒐集の一端を簡単に紹介しましたが、次回は、今に続く庶民の蒐集のあれこれを紹介する予定です。

平成19年1月～3月の貨幣セット販売予定

販売区分	名称	販売価格	受付開始時期
通信販売	平成19年銘通常ブルーセット(年銘板有)	7,500円	受付開始時にDMでお知らせします。
	同上(年銘板無)	7,350円	
	平成19年銘ミントセット	1,700円	
通年販売	平成19年銘ジャパンセット	1,900円	平成19年1月下旬頃から、造幣局構内ミントショップ、オンラインショップで販売予定。
	平成19年銘記念日セット	2,000円	
	平成19年銘ペーパーウェイト	3,900円	

※この販売予定は、変更することがあります。



A | B

A. ベルクマン博士肖像牌、表。ウィーン造幣局製。錫と鉛の合金。直径42.5mm。重量28.3g。銀色プルーフ仕上。此の合金は変色しないので着色もニス掛もしてゐない。

ヨオゼフ・ベルクマン博士の、正面からの高肉上半身肖像。肖像の右に「1796-1872」の生歿年銘。左腕脇に「A・SCHARFF」の署名。銘文にある通りベルクマン博士は貨幣学、古銭学の泰斗であり美術館の貨幣メダル部の長であった。此の章牌は1883年ウィーンで、又1886年ミュンヘンで開かれた貨幣研究団体の會合を記念し、ベルクマン博士の學徳を讃へて発行されたものである。彫刻は精緻強靱で氣品が高い。顔面の陰影を見ても肉付けのうまさが判る。覆輪、連珠、文字の帯、等の扱ひも肖像によく對應して洗練されてゐる。寸法は小さいが名作といふべきメダルであらう。

B. 全左、裏。極く浅い曲面の地に精妙な薄肉彫刻がほどこされてゐる。右側に坐す女性が左側の少年が掲げる繪圖を指差してゐる。繪圖には月桂樹の様な樹木の上に十三個の貨幣が描かれてゐる。女性が左手を置いてゐる本には「BERGMANN」の彫込文字がある。女性の足許の壺からは貨幣が溢れ出てゐる。他に石の柱、矛槍(halberd)、鎧の胴、楯、兜等がある。最下部のリボンの上に文字があるが壓寫のズレと潰れで判讀出来ない。

薄肉レリーフでこれだけの空間の奥行、立體感を出してゐて、流麗な動きがあり、陰影の階調が豊かである。秀れた彫刻は必ず美しい陰影を伴ふものである。

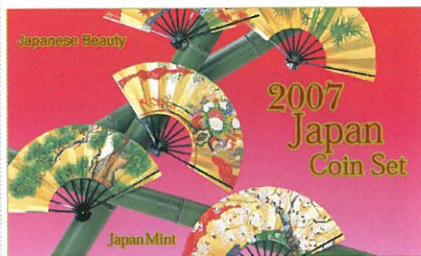
Anton Scharff(1845～1903)はウィーンの工藝美術學校に學び、更にウィーン造幣局附屬のメダル美術學校に學んだ。1866年に造幣局に入り、後にメダル美術學校長となった。アントン・シャルフは十九世紀末の最も秀れたメダル彫刻家である。

(元工藝管理官 松岡隆範 記)

(本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。)

平成19年銘通年販売貨幣セットの販売について

＜コレクションや記念品、贈りものとしてお買い求め下さい＞



ジャパンセット(1,900円)



記念日セット(2,000円)

上記の貨幣セットにつきましては、平成19年1月下旬頃から、造幣局構内ミントショップ、インターネット等で販売させていただく予定です。なお、「送料は別途ご負担」となります。詳細につきましては、下記のとおりまで、お問い合わせ願います。

写真はイメージ図です。

「近代日本の夜明け～円の誕生～造幣東京フェア2006」プルーフ貨幣セット

この貨幣セットは、平成18年10月に開催しました造幣東京フェア2006を記念して製造販売したものです。セットは平成18年銘の500円から1円までの6種類のプルーフ貨幣と、純銅製の年銘板を特製ケースに収納したものです。

この貨幣セットについて若干の在庫がございますので、ご希望がございましたら、下記のとおりまで、お問い合わせ願います。

※在庫がなくなり次第、受付を終了いたします。

お問い合わせ及びお申込み先
造幣局お客様サービスセンター
Tel 06-6351-2626(平日9時～17時)
※お掛け間違いのないようにお願いします。



販売価格 7,500円(税込み・送料別)

※送料は地域により、350円から850円となります。

お知らせ

平成18年銘の記念日セット、ペーパーウェイトについて、若干の在庫がございますので、ご希望がございましたら、上記のとおりまで、お問い合わせ願います。

南極地域観測50周年記念貨幣発行記念メダルの販売について

このたび、造幣局では南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣の発行を記念して、白金メダル及び銀メダルを製造販売することといたしました。

“白金メダル”の表面の図柄は、樺太犬であるタロ(左)とジロ(右)及び初代南極観測船「宗谷」をレリーフで表現し、裏面は、南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣の裏面の図柄とタイトルを配しています。

このメダルを、お客様のコレクションの一つに是非お加えいただき、末永くご愛顧いただければ幸いです。

白金メダル



表面



裏面

メダル仕様等

材質 純白金
直径 約 35mm
重さ 約 50g
厚さ 約 2.5mm
販売価格 360,000円(税送料込み)
販売予定数 300個 ※お申込み状況によっては、数量を変更する場合があります。

申込要領

申込数 お一人様3個限り
申込期限 平成18年11月30日(木) (消印有効)
申込方法 同封の申込はがきでお申込みください。
発送時期 平成19年2月上旬頃から順次発送いたします。

銀メダル



表面



裏面

“銀メダル”の表面の図柄は、現在活躍している南極観測船「しらせ」をレリーフで表現し、夜空に浮かび上がるオーロラをイメージしたカラー印刷を施しており、裏面は、南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣の両面の図柄を配しています。

なお銀メダルの販売要領につきましては、同封のリーフレットをご覧ください。

※白金メダル及び銀メダルの写真はイメージ図で、商品とは多少異なります。なお、裏表紙に原寸大のイメージ図を掲載しています。

このミントクラブはエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています

ISO14001取得
ISO 9001取得



JQA-QM9665
JQA-EM5105

発行所 独立行政法人 造幣局
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号
電話 06(6351)6928
造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>
編集兼発行 事業部販売事業課顧客サービス室

平成18年11月10日発行(第19号)

